

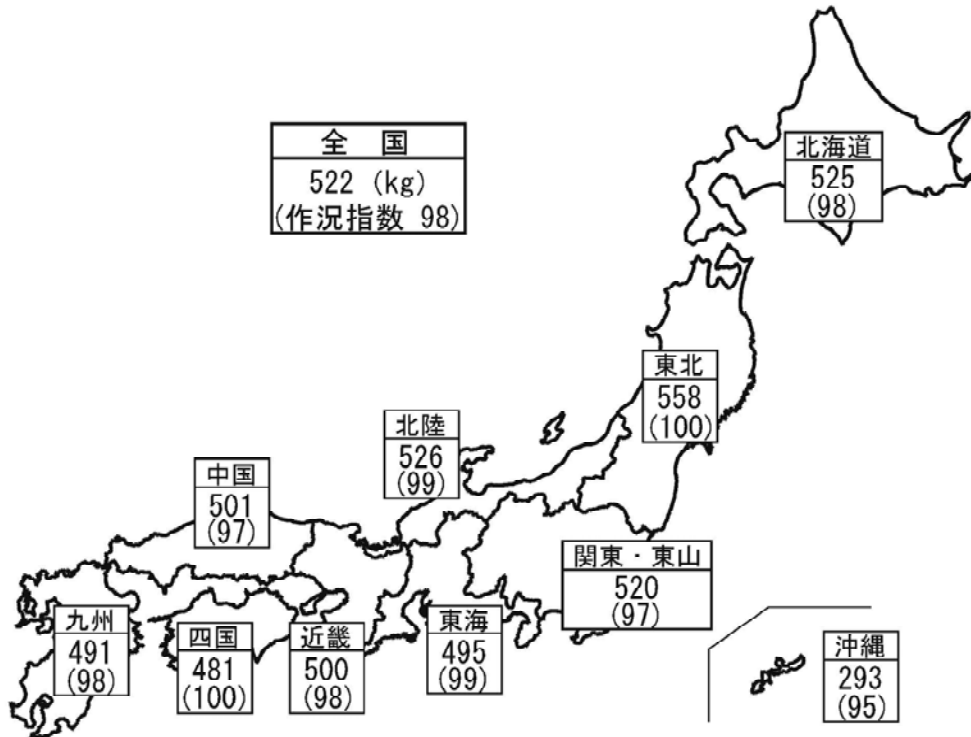
平成22年産水陸稲の収穫量

— 水稻の10a当たり収量は522kg（作況指数98）
— 収穫量（子実用）は847万8,000t

【調査結果の概要】

- 1 平成22年産水稻の作柄は、登熟はおおむね平年を上回って推移したものの、全もみ数がおおむね平年を下回ったことに加え、関東・東山及び中国の一部地域で白未熟粒等が多く発生したことから、全国の10a当たり収量は522kg（作況指数98）、収穫量（子実用）は847万8,000tで、前年産並みとなった。
- 2 平成22年産陸稲の作付面積（子実用）は2,890ha（前年産対比96%）で、収穫量（子実用）は5,460t（同66%）となった。

図 平成22年産水稻の全国農業地域別10a当たり収量



○ 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率である。

この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口（e-Stat）の「統計データ新着情報」でご覧になれます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

【関連するデータ、情報】

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針、及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための資料
- ・ 農業災害補償法に基づく農作物共済事業において共済基準収穫量算定のための資料

◎関連データ

累年統計表

水陸稲（子実用）の年次別推移（全国）

年 産	水 陸 稲 計		水 稲						
	作 付 面 積 (子実用)	収 穫 量 (子実用)	作 付 面 積 (子実用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考			作 況 指 数
						主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主食用)	10 a 当 たり 平 年 収 量	
	ha	t	ha	kg	t	ha	t	kg	
昭.55	2 377 000	9 751 000	2 350 000	412	9 692 000	471	87
56	2 278 000	10 259 000	2 251 000	453	10 204 000	474	96
57	2 257 000	10 270 000	2 230 000	458	10 212 000	477	96
58	2 273 000	10 366 000	2 246 000	459	10 308 000	478	96
59	2 315 000	11 878 000	2 290 000	517	11 832 000	479	108
60	2 342 000	11 662 000	2 318 000	501	11 613 000	481	104
61	2 303 000	11 647 000	2 280 000	508	11 592 000	484	105
62	2 146 000	10 627 000	2 123 000	498	10 571 000	487	102
63	2 110 000	9 935 000	2 087 000	474	9 888 000	490	97
平.元	2 097 000	10 347 000	2 076 000	496	10 297 000	492	101
2	2 074 000	10 499 000	2 055 000	509	10 463 000	494	103
3	2 049 000	9 604 000	2 033 000	470	9 565 000	497	95
4	2 106 000	10 573 000	2 092 000	504	10 546 000	498	101
5	2 139 000	7 834 000	2 127 000	367	7 811 000	499	74
6	2 212 000	11 981 000	2 200 000	544	11 961 000	499	109
7	2 118 000	10 748 000	2 106 000	509	10 724 000	501	102
8	1 977 000	10 344 000	1 967 000	525	10 328 000	502	105
9	1 953 000	10 025 000	1 944 000	515	10 004 000	504	102
10	1 801 000	8 960 000	1 793 000	499	8 939 000	507	98
11	1 788 000	9 175 000	1 780 000	515	9 159 000	512	101
12	1 770 000	9 490 000	1 763 000	537	9 472 000	518	104
13	1 706 000	9 057 000	1 700 000	532	9 048 000	518	103
14	1 688 000	8 889 000	1 683 000	527	8 876 000	522	101
15	1 665 000	7 792 000	1 660 000	469	7 779 000	524	90
16	1 701 000	8 730 000	1 697 000	514	8 721 000	525	98
17	1 706 000	9 074 000	1 702 000	532	9 062 000	527	101
18	1 688 000	8 556 000	1 684 000	507	8 546 000	529	96
19	1 673 000	8 714 000	1 669 000	522	8 705 000	529	99
20	1 627 000	8 823 000	1 624 000	543	8 815 000	1 596 000	8 658 000	530	102
21	1 624 000	8 474 000	1 621 000	522	8 466 000	1 592 000	8 309 000	530	98
22	1 628 000	8 483 000	1 625 000	522	8 478 000	1 580 000	8 239 000	530	98

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積である。

3 「…」は事実不詳又は調査を欠くもの。

【調査結果】

1 作柄概況

(1) 水 稲（統計表 P 8、9 参照）

ア 平成22年産水稻の地域別の作柄は、北海道では、登熟はおおむね順調に推移したものの、全もみ数が少ないことから、10 a 当たり収量は525kg（作況指数98）となった。

東北では、全もみ数はおおむね平年を下回ったものの、登熟が太平洋側でおおむね順調に推移したことから、10 a 当たり収量は558kg（同100）となった。

関東・東山及び中国では、登熟期間の高温により、一部地域で白未熟粒等が多く発生したこと等から、関東・東山は10 a 当たり収量520kg（同97）、中国は501kg（同97）となった。

その他の地域では、登熟はおおむね平年を上回ったものの、全もみ数がおおむね平年を下回ったことから、北陸は10 a 当たり収量526kg（同99）、東海は495kg（同99）、近畿は500kg（同98）、四国は481kg（同100）、九州は491kg（同98）となった。

この結果、全国の10 a 当たり収量は522kg（同98）となった。

イ 以上の結果、収穫量（子実用）は847万8,000 t となった。

また、主食用作付面積に10 a 当たり収量に乗じた収穫量（主食用）は823万9,000 t となった。

(2) 陸 稲（統計表 P 9 参照）

平成22年産陸稲の作柄は、主産県の茨城県及び栃木県において、出穂後の高温・少雨により干害が発生したことから、全国の10 a 当たり収量は189kg（平均収量対比72%）となった。

表 1 平成22年産水陸稲の収穫量（全国農業地域別）

全国農業地域	水陸稲計		水 稲						
	作付面積 (子実用)	収穫量 (子実用)	作付面積 (子実用) ①	10 a 当たり 収 量 ②	収 穫 量 (子 実 用) ③=①×②	参 考			
						主食用 作付面積 ④	収 穫 量 (主食用) ⑤=④×②	10 a 当たり 平年収量 ⑥	作況指数 ⑦=②/⑥
ha	t	ha	kg	t	ha	t	kg		
全 国	1 628 000	8 483 000	1 625 000	522	8 478 000	1 580 000	8 239 000	530	98
北 海 道	114 600	601 700	114 600	525	601 700	112 400	590 100	535	98
東 北	419 300	2 339 000	419 300	558	2 339 000	400 600	2 236 000	557	100
北 陸	210 900	1 109 000	210 900	526	1 109 000	198 300	1 043 000	533	99
関東・東山	302 400	1 563 000	299 500	520	1 558 000	293 500	1 527 000	534	97
東 海	104 400	517 000	104 400	495	517 000	103 200	510 500	502	99
近 畿	110 500	552 000	110 500	500	552 000	109 000	544 800	509	98
中 国	117 500	588 800	117 500	501	588 800	116 600	583 300	517	97
四 国	57 700	277 300	57 700	481	277 300	57 600	277 300	483	100
九 州	190 000	933 000	190 000	491	933 000	188 400	925 100	502	98
沖 縄	914	2 680	914	293	2 680	910	2 670	309	95

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積である。

3 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

2 水稻の被害概況（統計表 P10参照）

平成22年産水稻の被害を被害種類別にみると、高温障害が最も大きく（被害総量に占める割合21%）、次いで日照不足（同19%）、風水害（同9%）となっている。

表2 平成22年産水稻の被害面積及び被害量（全国）

被害種類	被害面積	被害量	
		実数	構成比
総数	4 913 000 ^{ha}	826 800 ^t	100 [%]
うち気象被害	3 363 000	600 000	73
風水害	445 100	78 300	9
干害	19 700	5 310	1
冷害	1 480	213	0
日照不足	952 600	161 200	19
高温障害	979 500	176 200	21
その他	965 100	178 800	22
うち病害	749 600	138 900	17
いもち病	268 800	66 500	8
紋枯病	267 900	46 800	6
その他	212 900	25 600	3
うち虫害	672 800	64 400	8
ニカメイチュウ	54 800	5 500	1
ウンカ	82 400	15 300	2
カメムシ	121 300	11 700	1
その他	414 300	31 900	4

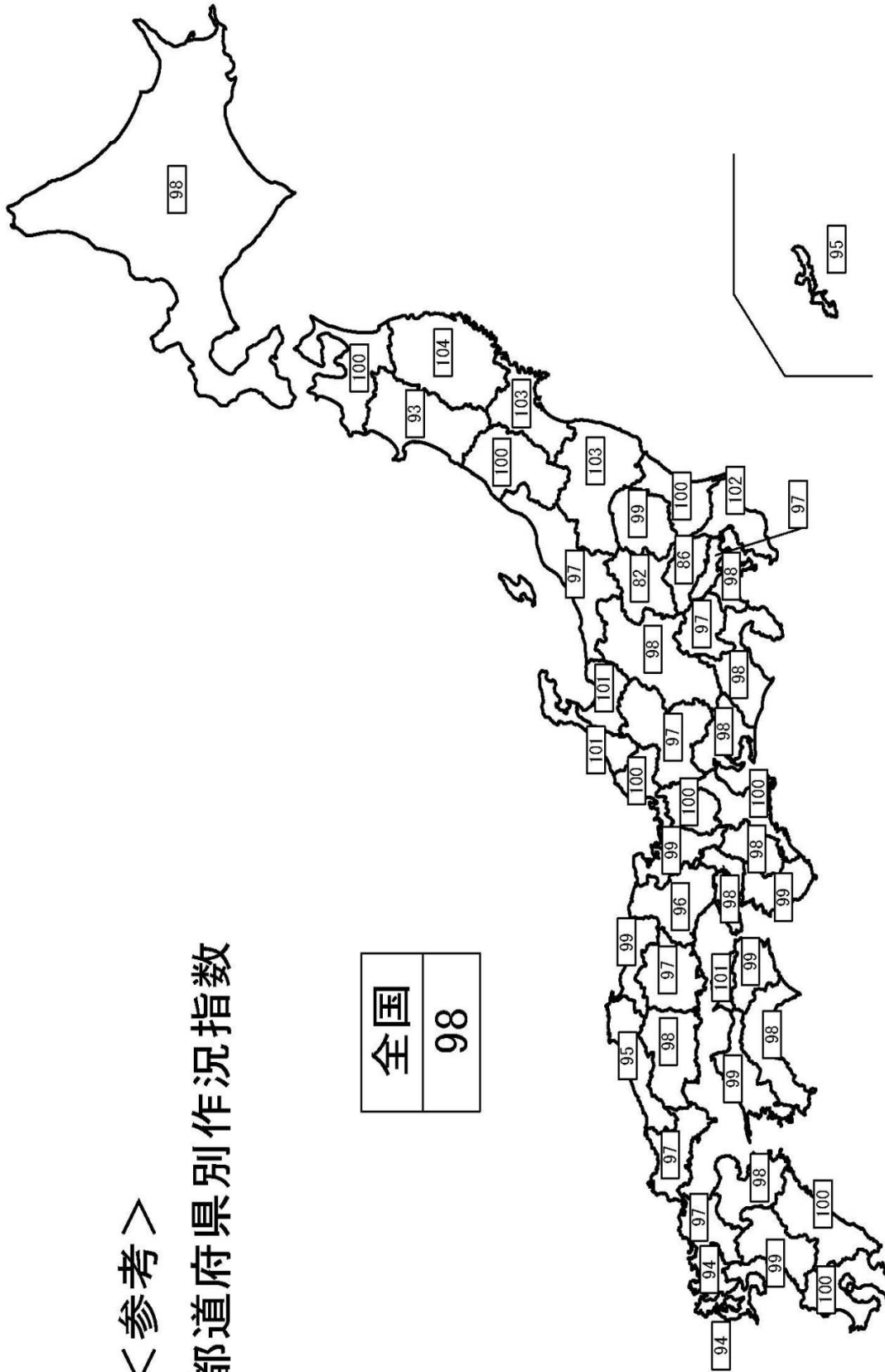
注：1 被害面積の総数並びに気象被害、病害及び虫害の計は、被害種類別面積の延べ数であり、同一地域で2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上している（P10の統計表2について同じ。）。

- 2 気象被害のその他は、異常低温、塩害等である。
- 3 病害のその他は、胡麻葉枯病、白葉枯病等である。
- 4 虫害のその他は、コブノメイガ等である。

<参考>

都道府県別作況指数

全国
98



注： 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

【 統 計 表 】

【統計表一覧】

1	平成22年産水陸稲の収穫量	8
2	平成22年産水稲の被害面積及び被害量	10
参考 1	平成22年産水稲の作柄表示地帯別作況指数	11
参考 2	平成22年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況及び 10 a 当たり収量内訳（全国農業地域別）	13
参考 3	農家等が使用した選別ふるい目幅の分布 【平成22年産水稲作況標本(基準)筆農家からの聞き取り結果】	14
参考 4	収穫量調査の流れ	15
参考 5	作況標本筆とは	16

【利用上の注意】

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1,000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数 (下から)		3けた	2けた		1けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

- 2 表中に用いた記号は、以下のとおりである。

- 「0」、「0.0」：単位に満たないもの（例：0.4ha→0ha）
- 「－」：事実のないもの
- 「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
- 「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの
- 「△」：負数又は減少したもの

- 3 秘匿方法について

本統計表において、調査対象数が3未満の場合には調査結果の秘密保護の観点から、該当結果を「x」表示とする秘匿措置を施している。

なお、全体（計）からの差し引きにより該当結果が推定できる場合には、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「x」表示としている。

1 平成22年産水陸稲の

全 国 都 道 府 県	水 陸 稲 計		水			
	作 付 面 積 (子 実 用)	収 穫 量 (子 実 用)	作 付 面 積 (子 実 用) ①	10 a 当 たり 収 量 ②	収 穫 量 (子 実 用) ③=①×②	主 食 用 作 付 面 積 ④
	ha	t	ha	kg	t	ha
全 国 1	1 628 000	8 483 000	1 625 000	522	8 478 000	1 580 000
北 海 道 2	114 600	601 700	114 600	525	601 700	112 400
青 森 3	49 400	285 500	49 400	578	285 500	47 100
岩 手 4	56 400	312 500	56 400	554	312 500	54 800
宮 城 5	73 400	400 000	73 400	545	400 000	71 800
秋 田 6	91 300	488 500	91 300	535	488 500	82 300
山 形 7	68 200	406 500	68 200	596	406 500	65 300
福 島 8	80 600	445 700	80 600	553	445 700	79 400
茨 城 9	79 200	406 000	77 200	521	402 200	75 400
栃 木 10	64 500	343 200	63 900	535	341 900	61 900
群 馬 11	18 100	73 100	18 000	406	73 100	17 300
埼 玉 12	35 800	152 200	35 700	426	152 100	35 400
千 葉 13	61 500	332 900	61 400	542	332 800	60 800
東 京 14	194	725	179	396	709	179
神 奈 川 15	3 240	15 400	3 220	479	15 400	3 220
新 潟 16	117 900	617 800	117 900	524	617 800	108 600
富 山 17	39 800	214 100	39 800	538	214 100	38 100
石 川 18	26 400	138 300	26 400	524	138 300	25 500
福 井 19	26 800	138 800	26 800	518	138 800	26 100
山 梨 20	5 290	27 900	5 290	528	27 900	5 260
長 野 21	34 600	211 800	34 600	612	211 800	34 000
岐 阜 22	24 900	118 300	24 900	475	118 300	24 700
静 岡 23	17 500	89 600	17 500	512	89 600	17 300
愛 知 24	31 000	154 100	31 000	497	154 100	30 600
三 重 25	31 000	155 000	31 000	500	155 000	30 500
滋 賀 26	33 100	170 800	33 100	516	170 800	32 500
京 都 27	15 800	79 600	15 800	504	79 600	15 700
大 阪 28	5 820	28 300	5 820	486	28 300	5 820
兵 庫 29	38 800	188 600	38 800	486	188 600	38 100
奈 良 30	9 360	47 300	9 360	505	47 300	9 330
和 歌 山 31	7 620	37 400	7 620	491	37 400	7 620
鳥 取 32	14 200	72 000	14 200	507	72 000	14 100
島 根 33	19 400	93 500	19 400	482	93 500	19 200
岡 山 34	33 800	172 000	33 800	509	172 000	33 400
広 島 35	26 400	134 900	26 400	511	134 900	26 000
山 口 36	23 900	116 400	23 900	487	116 400	23 900
徳 島 37	13 500	63 600	13 500	471	63 600	13 500
〔 早期栽培 38	5 190	453	23 500	...
〔 普通栽培 39	8 290	482	40 000	...
香 川 40	15 300	76 800	15 300	502	76 800	15 300
愛 媛 41	15 800	78 200	15 800	495	78 200	15 800
高 知 42	13 100	58 700	13 100	448	58 700	13 100
〔 早期栽培 43	7 690	36 000	7 690	468	36 000	...
〔 普通栽培 44	5 450	22 900	5 450	420	22 900	...
福 岡 45	39 400	191 500	39 400	486	191 500	39 000
佐 賀 46	27 800	137 100	27 800	493	137 100	27 700
長 崎 47	14 000	62 900	14 000	449	62 900	13 900
熊 本 48	39 500	202 200	39 500	512	202 200	39 100
大 分 49	24 400	120 800	24 400	495	120 800	24 300
宮 崎 50	20 100	99 700	20 100	496	99 700	20 000
〔 早期栽培 51	8 580	479	41 100	...
〔 普通栽培 52	11 500	509	58 500	...
鹿 児 島 53	24 800	118 800	24 800	479	118 800	24 400
〔 早期栽培 54	5 890	430	25 300	...
〔 普通栽培 55	18 900	494	93 400	...
沖 縄 56	914	2 680	914	293	2 680	910
〔 第一期稲 57	591	2 220	591	375	2 220	...
〔 第二期稲 58	323	465	323	144	465	...

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積である。

収穫量

稲			陸 稲				全 国 都道府県
参 考	10a 当たり 平均収量 ⑥	作 況 指 数 ⑦=②/⑥	作 付 面 積 (子実用)	10a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	(参 考) 10a 当たり 平均収量 対 比	
収 穫 量 (主 食 用) ⑤=④×②	t	kg	ha	kg	t	%	
8 239 000	530	98	2 890	189	5 460	72	1
590 100	535	98	-	-	-	-	2
272 200	580	100	11	261	29	105	3
303 600	533	104	2	202	5	104	4
391 300	530	103	1	74	1	52	5
440 300	573	93	2	200	4	96	6
389 200	594	100	0	123	0	75	7
439 100	537	103	8	151	12	93	8
392 800	520	100	1 970	191	3 760	70	9
331 200	539	99	658	200	1 320	78	10
70 200	494	82	25	144	36	83	11
150 800	493	86	67	116	78	59	12
329 500	533	102	87	128	111	68	13
709	408	97	15	109	16	64	14
15 400	490	98	17	164	28	86	15
569 100	539	97	4	220	9	91	16
205 000	535	101	-	-	-	-	17
133 600	519	101	x	x	x	x	18
135 200	517	100	-	-	-	-	19
27 800	547	97	-	-	-	-	20
208 100	623	98	-	-	-	-	21
117 300	488	97	1	80	1	67	22
88 600	521	98	1	205	3	90	23
152 100	507	98	0	115	0	82	24
152 500	500	100	x	x	x	x	25
167 700	518	100	-	-	-	-	26
79 100	511	99	x	x	x	x	27
28 300	495	98	-	-	-	-	28
185 200	504	96	-	-	-	-	29
47 100	513	98	-	-	-	-	30
37 400	495	99	-	-	-	-	31
71 500	514	99	-	-	-	-	32
92 500	509	95	-	-	-	-	33
170 000	526	97	-	-	-	-	34
132 900	523	98	-	-	-	-	35
116 400	504	97	-	-	-	-	36
63 600	474	99	x	x	x	x	37
...	463	98	38
...	480	100	39
76 800	499	101	-	-	-	-	40
78 200	498	99	-	-	-	-	41
58 700	459	98	-	-	-	-	42
...	478	98	-	-	-	-	43
...	432	97	-	-	-	-	44
189 500	499	97	-	-	-	-	45
136 600	527	94	-	-	-	-	46
62 400	476	94	x	x	x	x	47
200 200	515	99	6	150	9	102	48
120 300	503	98	0	196	1	93	49
99 200	495	100	6	234	14	111	50
...	478	100	51
...	509	100	52
116 900	479	100	9	233	21	104	53
...	439	98	54
...	492	100	55
2 670	309	95	-	-	-	-	56
...	370	101	-	-	-	-	57
...	180	80	-	-	-	-	58

3 全国の収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

2 平成22年産水稻の被害面積及び被害量

全 国 都道府県	総 数		気 象 被 害				病 害		虫 害	
	被害面積	被害量	気 象 被 害		高 温 障 害		被害面積	被害量	被害面積	被害量
			被害面積	被害量	被害面積	被害量				
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
全 国	4 913 000	826 800	3 363 000	600 000	979 500	176 200	749 600	138 900	672 800	64 400
北 海 道	300 000	60 300	234 400	48 600	19 200	951	43 100	11 000	20 400	588
青 森	115 800	24 900	81 200	18 300	26 000	4 100	18 200	5 590	14 800	927
岩 手	150 500	16 400	138 100	14 900	1 660	10	4 680	756	5 920	618
宮 城	189 400	33 500	170 700	31 000	2 150	178	7 650	1 480	8 660	629
秋 田	389 500	78 300	331 500	69 900	91 300	5 910	36 200	7 370	20 800	1 000
山 形	246 900	35 600	173 400	28 600	63 400	4 010	26 100	4 760	40 700	1 950
福 島	229 500	23 300	179 900	14 400	40 900	2 320	22 600	6 970	23 800	1 470
茨 城	165 500	43 400	124 900	29 900	6 400	2 400	20 700	9 190	17 700	3 680
栃 木	236 700	37 300	156 000	30 000	41 000	10 600	47 100	4 710	25 600	2 160
群 馬	44 800	27 000	22 300	21 600	16 100	18 700	10 500	3 150	10 600	1 570
埼 玉	126 900	37 500	71 200	30 800	35 500	20 800	22 200	3 460	32 000	3 050
千 葉	77 300	14 800	56 100	10 800	26 800	5 520	14 300	3 010	4 610	590
東 京	299	56	179	42	179	42	60	7	21	2
神 奈 川	7 250	954	4 830	771	2 920	580	811	77	993	56
新 潟	484 200	42 800	384 300	32 800	117 900	15 000	59 700	8 320	32 500	1 090
富 山	75 100	4 780	53 200	3 810	39 800	2 180	4 000	271	15 600	428
石 川	41 400	3 130	32 300	2 500	26 400	1 560	5 450	367	2 920	112
福 井	98 700	5 510	82 000	3 210	21 500	1 080	10 500	1 470	5 630	370
山 梨	12 400	2 570	8 090	1 760	3 210	727	1 620	266	2 080	385
長 野	136 200	14 000	89 900	9 780	32 500	5 720	15 800	1 910	20 500	1 390
岐 阜	58 000	11 700	25 900	5 940	12 400	2 250	14 000	2 960	16 800	2 270
静 岡	45 100	8 500	18 300	4 330	14 200	3 460	9 570	1 280	14 300	1 820
愛 知	107 400	12 300	50 900	6 170	28 100	3 140	18 000	2 140	30 700	3 420
三 重	87 600	11 200	54 200	6 430	25 600	3 310	17 200	2 400	10 300	1 300
滋 賀	101 600	14 600	57 900	8 700	24 400	2 390	24 900	4 220	16 700	945
京 都	40 400	4 320	30 200	2 430	5 250	501	3 060	601	5 820	613
大 阪	22 700	2 900	11 100	1 410	5 200	559	3 670	589	6 090	547
兵 庫	97 300	16 500	67 100	13 700	24 600	4 450	9 520	829	17 000	1 030
奈 良	24 100	4 290	12 900	718	5 170	155	7 430	2 540	3 430	750
和 歌 山	27 100	3 270	10 300	1 390	5 580	555	6 390	868	8 220	754
鳥 取	22 200	6 100	7 890	4 120	1 250	190	7 050	1 050	7 000	701
島 根	65 500	14 200	56 300	12 900	19 400	3 740	4 510	612	3 090	234
岡 山	104 000	20 400	61 200	15 000	23 000	11 700	21 800	2 870	18 500	1 700
広 島	54 900	11 300	40 100	6 480	7 420	1 600	6 720	1 350	5 820	1 740
山 口	80 600	12 100	57 800	8 750	23 900	1 580	7 430	1 470	8 450	697
徳 島	53 500	8 040	24 800	4 850	5 560	210	13 000	2 050	12 000	882
香 川	42 400	6 670	18 400	3 100	8 380	1 150	11 800	1 890	9 830	1 280
愛 媛	41 100	7 750	22 400	4 550	4 890	1 200	6 950	1 050	9 800	1 250
高 知	47 000	7 420	22 800	4 640	9 360	1 700	5 460	1 000	16 600	1 330
福 岡	136 900	21 300	74 900	13 800	33 100	7 670	31 400	4 430	24 400	2 080
佐 賀	93 800	23 200	44 900	14 200	19 600	4 940	26 900	4 970	21 400	3 670
長 崎	46 400	12 100	24 200	6 970	7 710	2 420	9 360	2 680	11 400	2 000
熊 本	93 600	27 300	47 000	17 600	20 700	8 320	24 700	5 850	20 800	3 500
大 分	80 300	17 000	40 200	10 700	14 300	2 850	25 200	4 340	13 400	1 090
宮 崎	68 600	15 800	24 900	7 400	129	163	26 100	5 600	16 400	2 260
鹿 児 島	144 100	20 600	62 500	10 400	15 500	3 630	36 400	5 190	38 900	4 400
沖 縄	341	322	248	173	-	-	58	66	31	80

【参考1】

平成22年産水稻の作柄表示地帯別作況指数

都道府県 (作況指数)	作柄表示地帯	作況指数	都道府県 (作況指数)	作柄表示地帯	作況指数		
北海道 (98)	狩知	103	群馬 (82)	中毛	70		
	南空	99		北毛	101		
	北空	94		東毛	90		
	上川	97		埼玉 (86)	東部	87	
	留萌	98			西部	85	
	渡島	104			千葉 (102)	京葉	101
	檜山	103				九十九里	102
	後志	103		南房総		100	
	胆振	102		東京 (97)		東京	97
	日高	101			神奈川 (98)	神奈川	98
十勝	134	新潟 (97)	岩船			98	
網走	113		下越			99	
青森 (100)	青森		101	下越		99	
	津軽		97	中部	95		
	南部・下北	105	魚沼	95			
	岩手 (104)	北上川上流	103	上越	97		
北上川下流		104	佐渡	97			
東部		102	富山 (101)	東部	100		
北部		103		西部	101		
宮城 (103)	南部	99		石川 (101)	加賀	101	
	中部	100			能登	101	
	北部	104	福井 (100)		嶺北	100	
	東部	104			嶺南	100	
秋田 (93)	県北	94		山梨 (97)	山梨	97	
	県中	90			長野 (98)	東信	99
	県南	95	南信			98	
	山形 (100)	村山	101			中信	97
最上		99	北信	100			
置賜		102	岐阜 (97)	西濃	97		
庄内		99		中濃	96		
福島 (103)	中通り	103		東濃	99		
	浜通り	104		飛騨	99		
	会津	102	静岡 (98)	東部	98		
	茨城 (100)	北部		102	中部	97	
鹿行部		100		西部	99		
南西部		99		栃木 (99)	北部	99	
西部		100	中部		99		
栃木 (99)	北部	99	南部		99		
	中部	99					
	中部	99					
	南部	99					

平成22年産水稻の作柄表示地帯別作況指数(つづき)

都道府県 (作況指数)	作柄表示地帯	作況指数	都道府県 (作況指数)	作柄表示地帯	作況指数
愛知 (98)	尾張	96	高知 (98)	中東部	100
	西三河	100		西部	94
	東三河	100			
三重 (100)	北勢	100	福岡 (97)	福岡	97
	中勢	100		北九州・豊前	100
	南勢	99		筑豊	97
	伊賀	99		北筑後	97
				南筑後	95
滋賀 (100)	湖南	100	佐賀 (94)	佐賀	94
	湖北	99		松浦	91
京都 (99)	南部	98	長崎 (94)	西彼	91
	北部	100		東南部	95
大阪 (98)	大阪	98		県北	93
				五島	83
兵庫 (96)	県南	96		壱岐・対馬	102
	県北	99	熊本 (99)	県北	100
	淡路	99		阿蘇	99
		県南		99	
奈良 (98)	奈良	98	天草	90	
和歌山 (99)	和歌山	99	大分 (98)	北部	98
鳥取 (99)	東部	96		湾岸	99
	西部	100		南部	98
				日田	98
島根 (95)	出雲	95	宮崎 (100)	広域沿海	99
	石見	95		広域霧島	102
岡山 (97)	南部	94		西北山間	99
	中北部	101	鹿児島 (100)	薩摩半島	99
広島 (98)	南部	96		出水薩摩	101
	北部	99		伊佐始良	100
山口 (97)	東部	99		大隅半島	100
	西部	96		熊毛・大島	97
	長北	96	沖縄 (95)	沖縄諸島	103
		八重山		90	
徳島 (99)	北部	100			
	南部	97			
香川 (101)	香川	101			
愛媛 (99)	東予	101			
	中予	97			
	南予	100			

注：西南暖地の早期栽培等の地域（徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県）は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

【参考2】

平成22年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a 当たり収量内訳
(全国農業地域別)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている（【参考4】参照）。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量を示すと次のとおりである。

単位 { 重量割合 : %
平均対差 : ポイント

区分	計	ふるい目幅						
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm	
全国農業地域								
全 国	本年値	100.0	81.3	13.2	2.3	1.6	1.0	0.6
重量割合	平均対差		7.2	△ 5.1	△ 1.0	△ 0.5	△ 0.3	△ 0.3
北 海 道	本年値	100.0	85.0	10.3	1.8	1.3	1.0	0.6
重量割合	平均対差		7.2	△ 6.0	△ 0.8	△ 0.4	0.0	0.0
東 北	本年値	100.0	85.4	10.0	1.9	1.3	0.9	0.5
重量割合	平均対差		7.1	△ 5.8	△ 0.7	△ 0.4	△ 0.1	△ 0.1
北 陸	本年値	100.0	83.3	12.2	1.9	1.3	0.8	0.5
重量割合	平均対差		4.7	△ 3.9	△ 0.4	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.1
関東・東山	本年値	100.0	73.4	19.2	3.1	2.3	1.3	0.7
重量割合	平均対差		3.8	△ 2.9	△ 0.5	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.2
東 海	本年値	100.0	83.6	11.5	2.2	1.2	0.8	0.7
重量割合	平均対差		6.5	△ 4.6	△ 0.9	△ 0.5	△ 0.3	△ 0.2
近 畿	本年値	100.0	82.0	12.4	2.1	1.7	1.1	0.7
重量割合	平均対差		5.9	△ 4.1	△ 0.7	△ 0.6	△ 0.2	△ 0.3
中 国	本年値	100.0	84.5	11.0	1.8	1.3	0.8	0.6
重量割合	平均対差		4.9	△ 3.1	△ 0.9	△ 0.4	△ 0.3	△ 0.2
四 国	本年値	100.0	76.7	16.1	3.2	2.0	1.3	0.7
重量割合	平均対差		10.6	△ 6.8	△ 1.9	△ 0.9	△ 0.6	△ 0.4
九 州	本年値	100.0	76.8	16.0	3.1	2.0	1.3	0.8
重量割合	平均対差		16.9	△ 10.4	△ 2.9	△ 1.7	△ 1.1	△ 0.8

単位 : kg

区分	10a当たり 収量 (1.70mm選別)	選別ふるい目幅別10a当たり収量				
		2.00mm 選別	1.90mm 選別	1.85mm 選別	1.80mm 選別	1.75mm 選別
全国農業地域						
全 国	522	424	493	505	514	519
北 海 道	525	446	500	510	517	522
東 北	558	477	532	543	550	555
北 陸	526	438	502	512	519	523
関東・東山	520	382	482	498	510	516
東 海	495	414	471	482	488	492
近 畿	500	410	472	483	491	497
中 国	501	423	478	487	494	498
四 国	481	369	446	462	471	478
九 州	491	377	456	471	481	487

- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。
2 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことである。
3 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

【参考3】

農家等が使用した選別ふるい目幅の分布

【平成22年産水稻作況標本(基準)筆農家からの聞き取り結果】

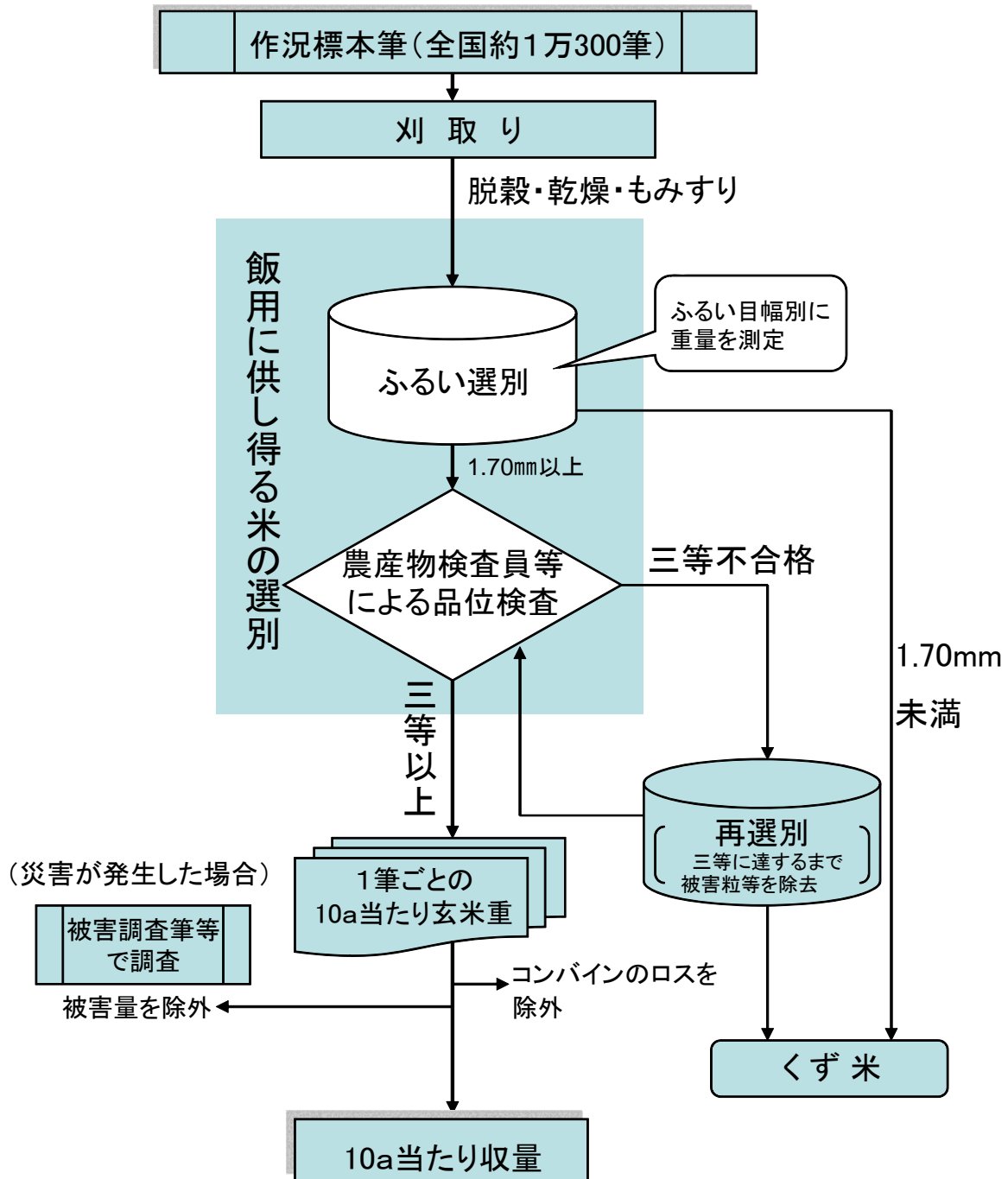
単位：%

区分 全国農業地域	計	2.0mm 以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
全 国	100.0	1.2	31.0	38.2	25.9	3.2	0.5
北 海 道	100.0	11.1	75.5	13.1	0.3	-	-
東 北	100.0	0.1	78.6	20.7	0.6	-	-
北 陸	100.0	1.2	50.8	45.5	2.3	0.2	-
関東・東山	100.0	0.2	2.7	43.7	43.6	9.1	0.7
東 海	100.0	0.1	11.1	47.8	38.4	2.0	0.6
近 畿	100.0	2.2	15.4	34.1	40.0	7.1	1.2
中 国	100.0	0.4	6.4	78.0	14.4	0.8	-
四 国	100.0	-	1.3	13.8	73.1	11.6	0.2
九 州	100.0	0.2	6.3	43.6	46.7	1.5	1.7

注：この表は水稻作況標本(基準)筆農家が使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考5】参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を筆と呼びます。^{ふで})は、都道府県ごとの水稲の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定(全国で約1万300筆)している。

都道府県内の全耕地
(母集団)



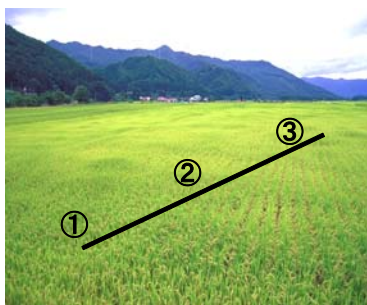
- 1 都道府県ごとの耕地を、約2ha(北海道は約10ha)の区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きのような選び方)により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
(約2ha)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
(全国で約1万300筆)



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所(①、②、③)を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行っている。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査（水稲・陸稲）の収穫量調査として実施し、水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導、共済事業の適切な運営等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

なお、全国農業地域の区分は、次のとおりである。

全国農業地域	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東海	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
近畿	岐阜、静岡、愛知、三重
中国	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
四国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
九州	徳島、香川、愛媛、高知
沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
	沖縄

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

ア 水稲

標本単位区：39,484単位区、巡回・見積り：1,728市町村

イ 陸稲

関係団体調査			巡回・見積り市町村数
団体数 ①	回収数 ②	回収率 ③=②/①	
団体	団体	%	市町村
25	24	96.0	1,728

(2) 収穫量調査

ア 水稲

作況標本筆：10,285筆、作況基準筆：849筆、巡回・見積り：1,728市町村

イ 陸稲

関係団体調査			標本経営体調査					
団体数 ①	回収数 ②	回収率 ③=②/①	母集団 経営体数 ④	標本数 ⑤	抽出率 ⑥=⑤/④	回収数 ⑦	回収率 ⑧=⑦/⑤	集計数 ⑨
団体	団体	%	経営体	経営体	%	経営体	%	経営体
23	19	82.6	7,420	670	9.0	473	70.6	195

巡回・情報収集：1,728市町村

関係団体調査は、調査対象作物の集荷を行っているすべての農協等の関係団体に対して調査を実施している全数調査である。

標本経営体調査の標本抽出は、2005年農林業センサスにおいて、調査対象作物を販売目的で作付けした農林業経営体から無作為に抽出（母集団名簿を作付面積順に並べ替えを行い、設定した作付面積規模別の標本数に応じて等間隔に抽出する方法（系統抽出法）により抽出）したものである。

4 調査事項

- (1) 作付面積調査
水陸稲：作付面積
- (2) 収穫量調査
 - ア 水 稲：登熟状況、10 a 当たり収量、被害状況、被害種類別被害面積・被害量、耕種条件等
 - イ 陸 稲：10 a 当たり収量及び収穫量

5 調査期間

- (1) 作付面積調査
 - ア 水 稲：7月15日現在
 - イ 陸 稲：収 穫 期
- (2) 収穫量調査
水陸稲：収 穫 期

6 調査方法

- (1) 作付面積調査
 - ア 水 稲
標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積り及び情報収集により行った。
 - イ 陸 稲
関係団体に対する往復郵送調査、職員による巡回・見積り及び情報収集により行った。
- (2) 収穫量調査
 - ア 水 稲
作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。
 - イ 陸 稲
関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査並びに職員による巡回・情報収集により行った。

7 集計方法

- (1) 作付面積調査
 - ア 水 稲
対地標本実測調査結果を基に、巡回・見積り結果及び情報収集結果により補完し算出している。
 - イ 陸 稲
関係団体調査結果を基に、巡回・見積り結果及び情報収集結果により補完し算出している。

(2) 収穫量調査

ア 水 稲

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完し算出している。

イ 陸 稲

調査対象作物の団体取扱数量（団体把握シェアおおむね80%を基準）に応じて、関係団体調査結果又は標本経営体調査結果（必要に応じて巡回・情報収集結果により補完）により算出した10 a 当たり収量を作付面積に乗じて算出している。

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。
- (2) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率である。
- (3) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。
- (4) 「10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10 a 当たり収量の比率をいう。
- (5) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量から減収した面積をいう。
- (6) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量より減収した量をいう。

9 その他

この資料に掲載した調査結果の詳細は平成23年6月刊行予定の『耕地及び作付面積統計』及び平成23年10月刊行予定の『作物統計』に掲載する。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

米関係ページ：農林水産省＞食料 <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>
農林水産省＞生産 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

米政策関連ページ：農林水産省＞食料＞米と麦
<http://www.maff.go.jp/j/soushoku/jyukyu/komeseisaku/>

全国米穀取引・価格形成センター：<http://www.komekakakucenter.jp/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について
農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 普通作物統計班
電話：03 (3502) 5687
面積統計班
電話：03 (6744) 2045

◎農林水産統計全般について
農林水産省 大臣官房統計部
統計企画課 広報普及班
電話：03 (6744) 2037